

令和6年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立辻南小学校) 学校番号 101

目指す学校像 かしこく やさしく たくましく ~花と歌と愛にあふれる学校~

重点目標
 1 「『個別最適化した学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」による授業改革
 2 「認め・褒め・励ます教育」と組織的な体制の充実による、安心・安全な学校の実現
 3 スクール・コミュニティでの連携・協働の推進で「地域とともにある学校」の実現
 4 自ら学び互いに高め合う教師集団と互いに支え合う同僚性の高い職場の実現

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和7年2月13日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査において、市平均と比較し国語は概ね平均、算数はやや低い。 ○日頃の学習の様子から、自らの興味のあることについて調べ、発表することに意欲的に取り組む児童が多い。 (課題) ○全国調査、市学習状況調査では、国語・算数とも「知識・技能」・基礎問題が市平均よりやや低く、反復・習熟が不十分。 ○国語では「書くこと」に課題があるため、自分の考えを適切に表現することが難しい児童が多いと考えられる。 ○ICTの活用状況に学級差があるので、児童の発達段階に応じつつ、教員の活用力向上を進めていく必要がある。	・「個別最適化した学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた、ICTの活用と授業改革 ・基礎学力の定着	①「学びのポイント(じ・し・ゃ・く)」の視点に基づいた授業公開を全教員が年1回以上行う。 ②アンケート等の教育データを活用し、「学びの指標」を基にした指導方法の改善を図る。 ③ICTの効果的活用を目指し、情報共有や実践の共有を行う。	①全教員が視点を明確にした指導案を作成し、年1回以上の授業公開 ②「学びの指標」2回、スクールダッシュボード「授業アンケート」各学期1回実施 ③ICT活用に係る研修を実施、市学習状況調査「ICTを活用した学び」項目が前年度より向上	①全教員が視点を明確化した「イチオンポイント」を記載した指導案を作成し、ICTを活用した授業公開を行った。 ②学びの指標対象者23名中、第2回向上15名同3名下5名であった。低下した者でも、全項目ではなく1項目以上は向上があった。 ③6年全国学調では、タブレット使用9割以上(不利用人数昨年と同じ)であった。	B	・校内研修の振り返りでは、ICTのよりよい活用方法や個別と協働の在り方などが課題に挙がったので、学習状況調査等で児童の実態を踏まえ、研究主題や研修計画を見直して、研修しながら授業改革を推進していく。	・授業参観では、自己肯定感をもって発表する姿が見られた。 ・タブレットの利用が進み、子どもたちのスキルも向上している。 ・ICT活用が進む反面、デジタルに頼ってしまい、読み書きのスキル、自分で考える力や国語力をどう向上するかが課題になる。また、予習にもタブレットを生かしているようになるとうい。 ・今後子どもたちに付けたい力として、自己アピールすることが必要ではないか。ディスカッションやプレゼン等を通し、自分の意見を発言できる場を増やしていきたい。
3	(現状) ○コミュニティ・スクールでの重点的取組を「あいさつ」とし、学校運営協議会の熟議に代表委員児童が参加した。 ○市学習状況調査では、地域との関わりに関して肯定的回答が市平均を上回った。 (課題) ○学校運営協議会への児童参加を継続できるようにしていく。 ○保護者から情報発信の方法について改善してほしいという意見が寄せられた。 ○コロナ対応が終わったので、地域や保護者と連携した活動を活性化していきたい。	・コミュニティ・スクールで推進する児童の健全育成 ・家庭や地域との連携・協働による教育活動の展開	①コミュニティ・スクールでの方策を実現するため、学校運営協議会で代表委員児童と委員が話し合う場を設定し、協働した取組を実施する。 ①保護者・地域等が関わる教育活動を全学年の教育課程に位置付け、実施する。 ②様々な教育活動を公開するとともに、デジタルサービスの導入で情報発信方法を改善、学校ホームページの定期的更新を行う。	①学校運営協議会への児童参加 ②学校評価アンケートで家庭・地域との連携に関する項目で肯定的回答90%以上	①第2回に南風委員会児童が参加し、その後南風委員会による学校をよりよくするキャンペーンを全校で行うなど、コミュニティ・スクールと連動した取組ができた。 ②「連携」肯定的回答：保護者93%児童83%	A	・学校運営協議会で児童を支える視点の確認→児童参加→児童会活動への反映→学校生活の充実のサイクルができてきているので、参加した児童以外に連携を伝えたい。	・地域行事への参加者が増えた。教職員の参加も感謝している。 ・代表委員会児童に「考動」が浸透しているのを感じた。学校運営協議会で児童と直接話し合い、生の声を聞くことができ、よい刺激になった。 ・辻地区では、小・中・高の連携もある。ここに地域も関わり盛り上げたい。子ども達が高校生に憧れをもつことができるように、合同で行う活動を増やしていくことも大事ではないか。

学力向上に関する取組

安心・安全に関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教職員の資質向上に関する取組

学校教育目標	進んで学び、心豊かで心身ともにたくましい児童の育成 かしこく やさしく たくましく
目指す学校像	かしこく やさしく たくましく ~花と歌と愛にあふれる学校~
重点目標	1 「『個別最適化した学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」による授業改革 2 「認め・褒め・励ます」教育を基盤とした組織的な心のサポート体制の充実 3 スクール・コミュニティでの連携・協働の推進で「地域とともにある学校」の実現 4 学校安全体制の充実と Well-being の実現に向けた教職員が働きやすい環境の整備 5 自ら学び互いに高め合う教師集団と互いに支え合う同僚性の高い職場の実現

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価		
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和8年2月12日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○R6 市の学習状況調査において、市平均と比較して国語は概ね平均、算数はやや低い。 ○市調査「学びに向かう力」において、教科への関心は市平均よりやや高く、日頃の学習の様子から、意欲的に取り組む児童が多い。 (課題) ○個人差が大きく、個別の支援の必要がある。 ○国語では「書くこと」に課題があり、自分の考えを適切に表現することが難しい児童が多い。 ○算数では、「数と計算」領域について3~6年各学年課題がある。	「個別最適化した学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた、ICTの活用と授業改革	①「学びのポイント」に基づく授業公開を全教職員が実施する。 ②教育データから児童状況と課題を把握し、研修と連動して授業改善を行う。 ③「カリマテ*デザインマップ」を基に、児童が資質・能力を活用・発揮する場を設定し、教科横断的な学びを促進する。 ④習熟を図る学習・自主学习・家庭学習の見直しで基礎学力を向上する。 ⑤考え伝える力を向上する読書活動を推進するとともに、学校図書館を活用した学習活動を充実する。	①全教職員が学校課題研修を基に手立てを講じた授業を実践(2学期) ②「学びの指標」第2回が第1回より向上 ③「カリマテ*デザインマップ」の作成、マップへ「発揮する場」の位置付け(1学期)、マップの修正・報告(2学期) ④市学習状況調査結果 国語「書くこと」算数「数と計算」正答率の向上 ⑤学校図書館年間貸出数が前年より増加	①研究課題「考えをもつ・広げる・深める」に焦点を当てた手立て「イチオシポイント」を明記した指導案を基に、全教職員が公開または研究授業を実施した。 ②学びの指標1回と2回平均比較:主体,探究,ICT,基礎の全項目向上 ③「カリマテデザインマップ」見直し(全体では夏季・学年末2回、学年会で随時) ④全国学調では、国語では自分の言葉でまとめることに課題、算数は向上が見られた。 ⑤年間貸出数は R6:28,867冊 R7:26,670冊と下回った。R7は高学年が来館で減少したと思われる。ピブリオバトルに新規取り組み、読書量が多い子が活躍できた。	B	・次年度は学校課題研究3年次、まとめとして研究発表を予定している。よりよい研修ができるよう、研修の振り返りを基に、研修組織の見直しや進め方の改善を行う。 ・「カリマテデザインマップ」が活用できるよう、学年会・研修・職員作業等で取り上げるようにしていく。 ・年間冊数は日常の学校図書館利用が大きく影響するので、高学年は教科等と図書館利用を関連付けて取り組むようにしていく。	・全教職員の授業公開が授業力と学力の向上に寄与している。 ・全体方針と単年度目標の評価を整理して、達成度を分かりやすくしたい。 ・ICT活用については大人が適切に活用をデザインしていくことが重要である。 ・宿題以外の読書を促すため、親子貸出や高学年の利用時間確保、地域図書館との連携など、本に親しむ環境づくりが必要である。
3	(現状) ○学校運営協議会で児童を支える視点の確認→児童参加→児童会活動への反映→学校生活の充実のサイクルができてきている。 (課題) ○R6 学校評価保護者回答では、「連携」4項目は向上があったが、「公開」は否定的回答が4%増えた。児童については、「連携」肯定的回答83%であったので、行事等に参加した児童以外にも地域との連携を伝えたい。	スクール・コミュニティで推進する児童の健全育成	①学校運営協議会に代表委員(南風委員)が参加し、協働した取組を実施する。 ②保護者及び地域の願いに謙虚に耳を傾け、様々な教育活動を積極的に公開するとともに、情報発信を行う。	①児童委員会主体によるキャンペーンや集会活動を学校運営協議会と協働で実施 ②全学年学期1回以上の教育活動公開、学校ホームページ週1回以上更新	①学校運営協議会熟議を基に、各児童委員会で取組の実施。第3回で成果と課題を報告。教職員・児童の地域連携意識が高まった。 ②行事公開に努め、学校評価では保護者から好評を得た。HPは週2,3回の更新実施。	A	・児童委員会とリンクしたので、特別活動部や生徒指導部の担当教職員がよく関わった。次年度担当者が代わっても実施できるよう、引継ぎを確実に行う。	・児童が協議会へ参加し、大人と意見を交換する取組は、協働的な学校運営として高く評価する。 ・児童の活動を通した発信が、コミュニティ・スクールやSSNの周知に効果があった。 ・ボランティアが新規参入しやすい環境づくり等が必要である。 ・子ども同士で誘い合い地域行事に参加できるよう、保護者や地域の主体的な関わりを期待する。
5	(現状) ○教員が学びたい教科を選択する研修スタイルを実施している。 ○経験年数の浅い教職員が多い。 (課題) ○経験値の差をカバーし、学び合う仕組みづくりが求められる。 ○教職員のライフステージに応じた持続可能な働き方を目指し、より働きやすい職場にすることが課題である。	自ら学び互いに高め合う教師集団をつくる研修の実施 同僚性を高めた働きやすい職場の実現	①教職員が強みを生かした目標を設定して研修や業務を行い、資質向上を図る。 ②学校課題研究では、自ら学びたい教科領域を選択して授業実践を行う。自発的な「プチ研修」も実施し、互いに学び合う研修組織を構築する。	①全教職員が「自分の強み」を生かし目標を設定(5月)、研修会等参加(夏季・2学期)、授業等の実践(2学期) ②プチ研修振り返りアンケート肯定的回答90%以上	①全教職員が年間3回の人事面談で目標と進捗状況を確認し、研修参加、教員は全員公開授業等実施 ②プチ研修13回実施、研修アンケートは集計中だが、プチ研修継続希望が複数あり次年度も実施予定	B	・若手教職員が多い中、学び合う意欲の高さを生かしながら、研修の質を高めていけるよう、次年度の学校課題研究のまとめに向け、指導者を招聘し、管理職も適切な指導助言ができるよう研鑽を積む。	・教員の頑張りが高く評価。負担や課題を保護者等と共有し相互理解を深める仕組みがあるがよい。 ・管理職による面談やプチ研修、教員同士の学び合いの環境づくりが素晴らしい。 ・外部から指導者を招聘した研修の継続が求められている。 ・教員の熱意を大切にしつつ柔軟な働き方の在り方が求められる。

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組